


青森県立高等学校教育改革推進計画
第1期実施計画（案）に関する
上北地区懇談会





本日の目的

- ① 第1期実施計画（案）の内容について御説明すること
- ② 第1期実施計画（案）について御意見をいただくこと
- ③ 今後のスケジュールについて御説明すること

本日の説明内容

- 1 高校教育改革の背景
- 2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第1期実施計画(案)概要
 - 第1 第1期実施計画策定の経緯
 - 第2 学校・学科の充実
 - 第3 学校規模・配置
 - 第4 県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進
- 3 今後のスケジュール



1 高校教育改革の背景

(1) 背景

社会の急速な変化

グローバル化・情報通信技術の進展、少子高齢化の進行等

国の制度改正

高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革等の高校教育を巡る環境の変化

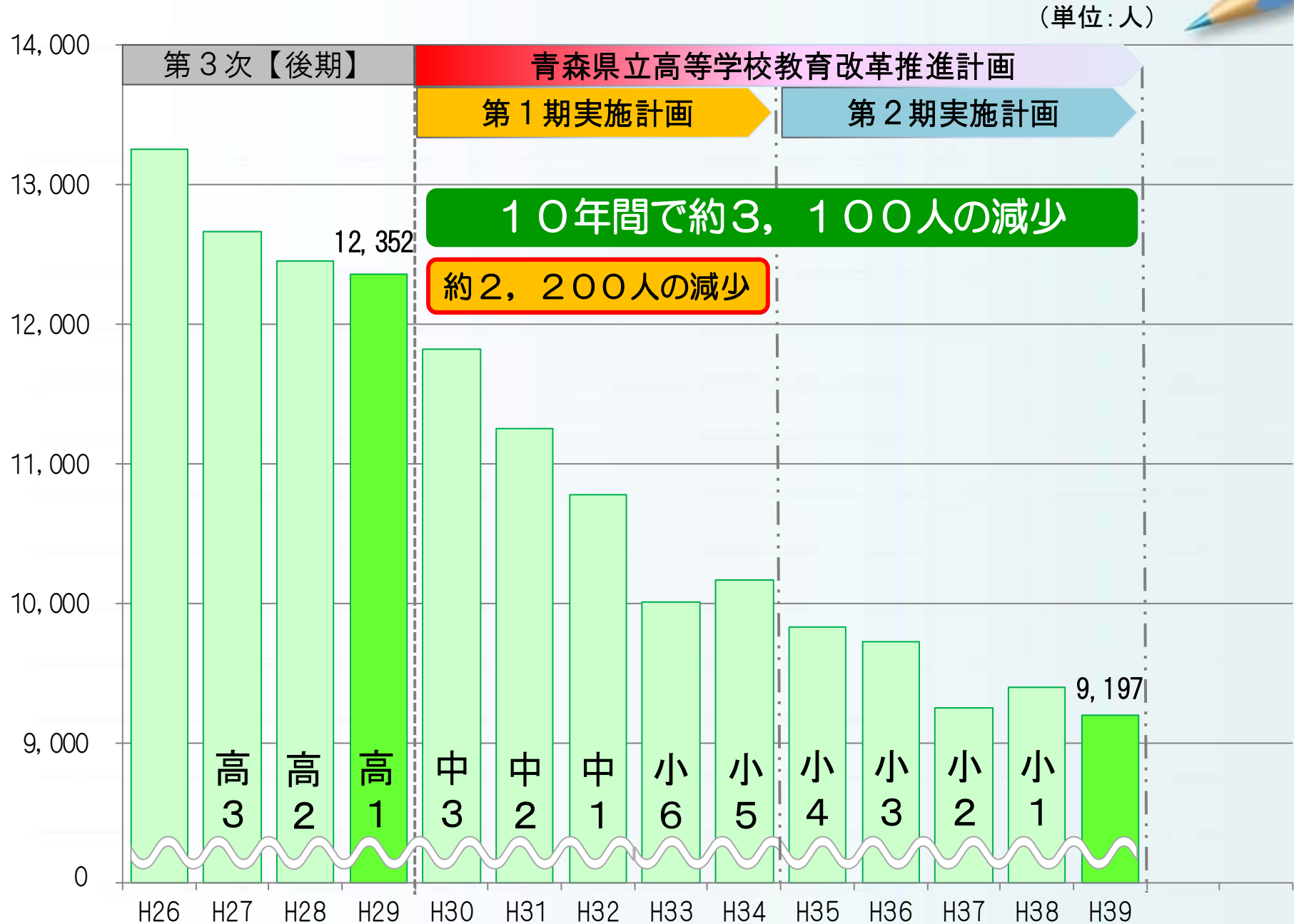
生徒の多様化

生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等の多様化
(平成28年の高校等進学率は99%)

生徒数の減少

平成29年3月から平成39年3月までの10年間で約3,100人の中学校卒業予定者数の減少

(2) 県全体の中学校卒業予定者数の推移



学年は平成29年4月1日現在

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。
平成29年3月以降は、県教育庁高等学校教育改革推進室推計値。

(3) 本県の未来を担う人財の育成

① これからの時代に求められる力

生きる力

確かな学力

豊かな心

健やかな体



本県が重視する力

逞しい心

学校から社会への円滑な移行に必要な力

郷土に誇りを抱き、青森県の未来を力強く支えようとする心

② 各高校の特色を生かした人財の育成

地域を支える
人財※

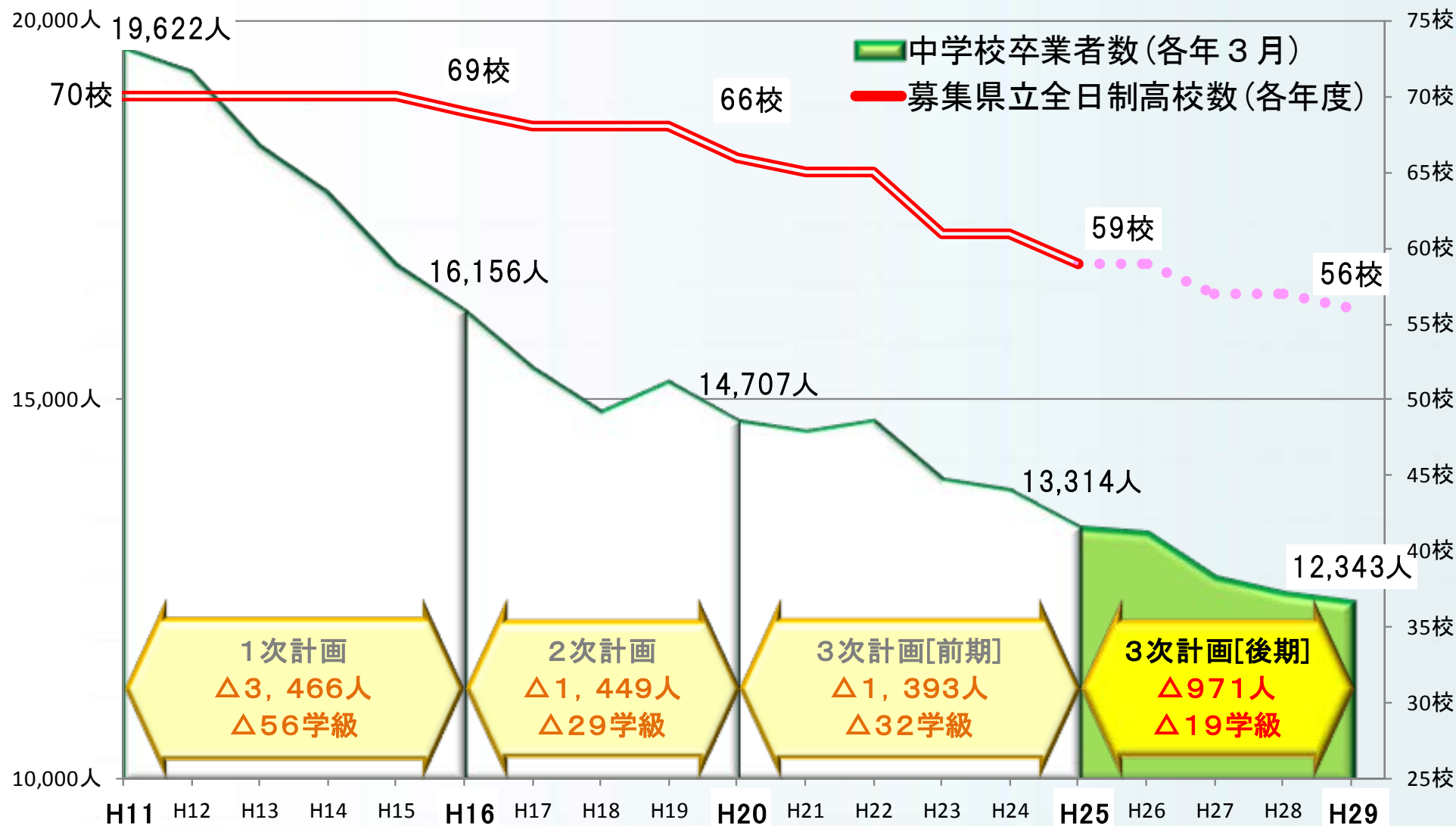
社会を牽引
する人財

産業の発展に
貢献する人財

※ 人財 … 「青森県基本計画未来を変える挑戦」（平成25年12月策定）等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考え方から、「人材」を「人財」と表記しており、青森県立高等学校教育改革推進計画においても同様に表している。

(4) 中学校卒業生数の減少へのこれまでの対応

(第1次実施計画～第3次実施計画【後期】)



1次計画	2次計画	3次計画[前期]	3次計画[後期]
△3,466人	△1,449人	△1,393人	△971人
△56学級	△29学級	△32学級	△19学級

<募集停止>		<募集停止>		<募集停止>		<募集停止>	
なし		野辺地高校横浜分校 △1		七戸高校八甲田校舎 △1		なし	
<学級減>		<学級減>		<学級減>		<学級減>	
三本木高校	△1	三本木高校	△1	三本木高校	△1	野辺地高校	△1
三沢高校	△2	七戸高校八甲田校舎	△1	百石高校	△1	三本木農業高校	△1
野辺地高校	△2	三本木農業高校	△1	六戸高校	△1	三沢商業高校	△1
				十和田工業高校	△1		



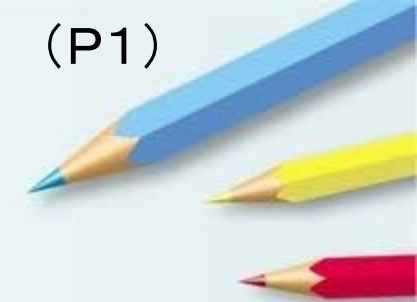
2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第1期実施計画(案)概要

第1 第1期実施計画策定の経緯

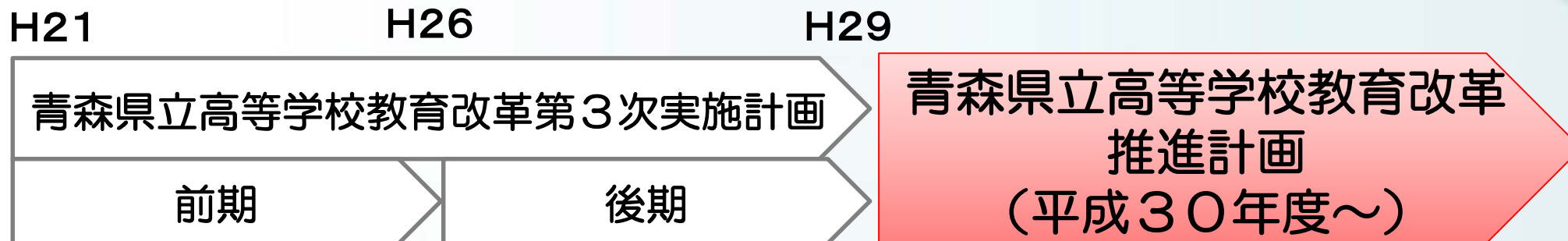
第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進



① 県立高等学校将来構想検討会議における検討



青森県立高等学校将来構想検討会議

○平成26年6月 設置、諮問

○平成27年7月 中間まとめ

意見募集、地区懇談会

○平成28年1月 答申

意見募集、地区懇談会

(目的)

社会の変化や生徒の急激な減少に対応し、夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高校の在り方を検討。

(委員構成)

大学、産業界、PTA、報道、市町村、中学校、高校等、様々な立場の延べ**93名**の委員により組織。

(会議回数)

約1年6ヶ月で延べ**43回**開催。

② 答申を踏まえた基本方針の策定

○平成28年5月 基本方針（案）の公表

パブリック・コメント、地区懇談会

○平成28年8月 基本方針の決定

【青森県立高等学校教育改革推進計画】

基本方針（平成30年度からおおむね10年間）
県立高校教育改革に関する基本的な考え方
（学校・学科の充実の方向性、学校規模・配置の考え方等）

第1期実施計画
（平成30～34年度）

第2期実施計画
（平成35～39年度）

地区ごとの具体的な学校規模・配置等

③ 地区意見交換会等の意見を参考とした実施計画の策定

地区意見交換会

○平成28年9月～平成29年1月

委員からの意見 県内6地区×3回開催

【委員構成】

- ・市町村教育委員会教育長
- ・小中学校長等の学校教育関係者
- ・PTA関係者
- ・産業界関係者等

【オブザーバー】

- ・県立学校長

市町村個別訪問

○平成28年10月～平成29年1月

市町村長及び市町村
教育委員会教育長への情報提供等
(県内40市町村)

充実した教育環境
の整備

基本方針

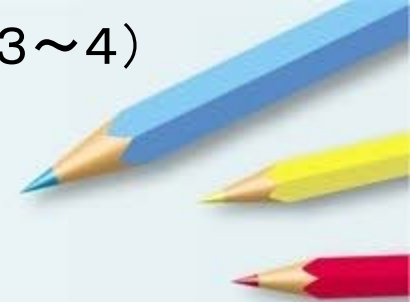
各地域の実情への
配慮

○平成29年4月 第1期実施計画(案)公表

パブリック・コメント、地区懇談会

【第1期実施計画（案）策定・公表までの取組】

年度	公表等	県民から意見を伺う機会
H26	県立高等学校将来構想検討会議 設置	
H27	中間まとめ(7月)	
	↓	← 意見募集、地区懇談会、市町村訪問
	答申(1月)	
	↓	← 意見募集、地区懇談会、市町村訪問
H28	基本方針(案)(5月)	
	↓	← パブリック・コメント、地区懇談会
	基本方針 決定(8月)	
	重点校、拠点校、地域校の試案	市町村訪問
	↓	← 地区意見交換会(9月～1月)
H29	第1期実施計画(案)(4月)	
	↓	← パブリック・コメント、地区懇談会
	第1期実施計画 決定(7月予定)	
H30	第1期実施計画 開始	



1 全ての高校に共通して求められる教育環境

<p>ア 課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実践</p>	<p>イ 社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の涵養</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、各授業等の充実 ○ 深い学びの視点に基づく探究型学習 ○ 他の高校との連携・協力による教育活動や地域の教育資源を活用した教育活動の推進 ○ 教員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、学校の教育活動全体を通じたキャリア形成への取組
<p>ウ ICTの活用による教育活動の充実</p>	<p>エ 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導におけるICTの適切な活用、情報通信ネットワークを活用した生徒同士の探究活動等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応として、特別支援学校との連携の強化や通級による指導等への段階的な取組

2 全日制課程 ー 普通科等※

各校の教育環境の充実

※ 普通科等 … 普通科及び普通科系の専門学科（理数、英語、外国語、スポーツ科学、表現の各学科）

- 各校の情報共有等により、大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、特色ある教育活動を充実
- 各地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かしたグローバル人材・科学技術人材の育成に向けた取組等を推進



2 全日制課程 ー 普通科等

普通科等の重点校

(目的) 県全体の普通科等における教育の質の確保・向上

(役割) 普通科等における特色ある取組をリード

(取組)

- ・ 選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともに**グローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等**
- ・ 重点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携により、生徒の進路志望の実現に向けた**確かな学力の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備**

地 区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
重点校	青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

○ 生徒の興味・関心や進路志望等の多様化に対応し、地域が求める人財を育成するため、田名部高校に単位制※を導入

○ その他の重点校に併設型中高一貫教育を第2期以降の実施計画において導入すること等について検討

※ 単位制 … 学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度

2 全日制課程 — 普通科等

重点校と各高校との連携イメージ

(平成29年度に生徒を募集した高校)

- 重点校
- 連携校 (普通科の高校)
- 連携校 (総合学科の高校)

※ 重点校と連携した取組を行う高校を連携校とします。

重点校と各校が連携しながら、県全体の普通科等における教育の充実を図ります。



〈グローバル・理数教育〉

- 英語コミュニケーション能力の向上に関する研究会
- グローバル教育・理数教育に関する研究成果発表会等



〈教員の連携〉

- 選抜性の高い大学への進学に対応した合同研修会
- 進路指導・小論文・面接指導等に関する研究会・講演会
- 他県進学校との情報交換会への参加による情報共有

〈生徒同士の協働的な学習〉

- 進路に対する意識の向上を目指した進路探究と自己理解のためのグループ協議



〈各校の生徒の参加〉

- 進路講演会
- OBの大学生や社会人等との懇談会
- 医学部医学科及び難関大学進学に向けた学習会



教育課程に基づく教科・科目は、各学校において学習し、日頃の学習成果の発表や資格取得の講習等については長期休業等を活用して連携します。

2 全日制課程 ー 普通科等

学科改編等

英語科	
対象校	三沢高校、田名部高校
実施年度	平成30～34年度
改編内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生のニーズ等を踏まえながら、高校卒業後の幅広い進路選択に対応するため、英語科を普通科に改編 ○ これまでの英語科における異文化・国際理解に関する学習を学校全体で発展的に引き継ぎ

【その他の普通科等の学科】

- 理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科については、引き続き、**専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて見直し**

2 全日制課程 一 職業教育を主とする専門学科※

各校の教育環境の充実

※ 職業教育を主とする専門学科 … 農業、工業、商業、水産、家庭、看護等の各学科

- 職業人として求められる基礎的・基本的な知識・技能に加え、**職業の多様化に対応できる資質・能力、高校卒業後も学び続ける態度を身に付けることができる教育環境を整備**するとともに、特色ある教育活動を充実
- 学校の特色を生かして、地域や社会が抱える様々な課題に積極果敢に挑戦し、本県はもとより、**国内外の産業の発展に貢献できる人材の育成**に向けた取組を推進



2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

職業教育を主とする専門学科の拠点校

- (目的) 県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上
 (役割) 各校の生徒が専門的な学習を深めることができる学習の拠点
 (取組) 拠点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携を図るとともに、大学との接続を視野に入れた取組や地域、企業等と連携・協力することにより、高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備

学 科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林高校 三本木農業高校 (上北地区統合校)	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

拠点校と各高校との連携イメージ

(平成29年度に生徒を募集した高校)

<農業科>

拠点校と各農業高校が連携しながら、
県全体の農業教育の充実を図ります。

● 拠点校

○ 連携校

(農業高校)

※ 拠点校と連携した取組を行う高校を連携校とします。



2 全日制課程 — 職業教育を主とする専門学科

拠点校と各高校との連携イメージ

(平成29年度に生徒を募集した高校)

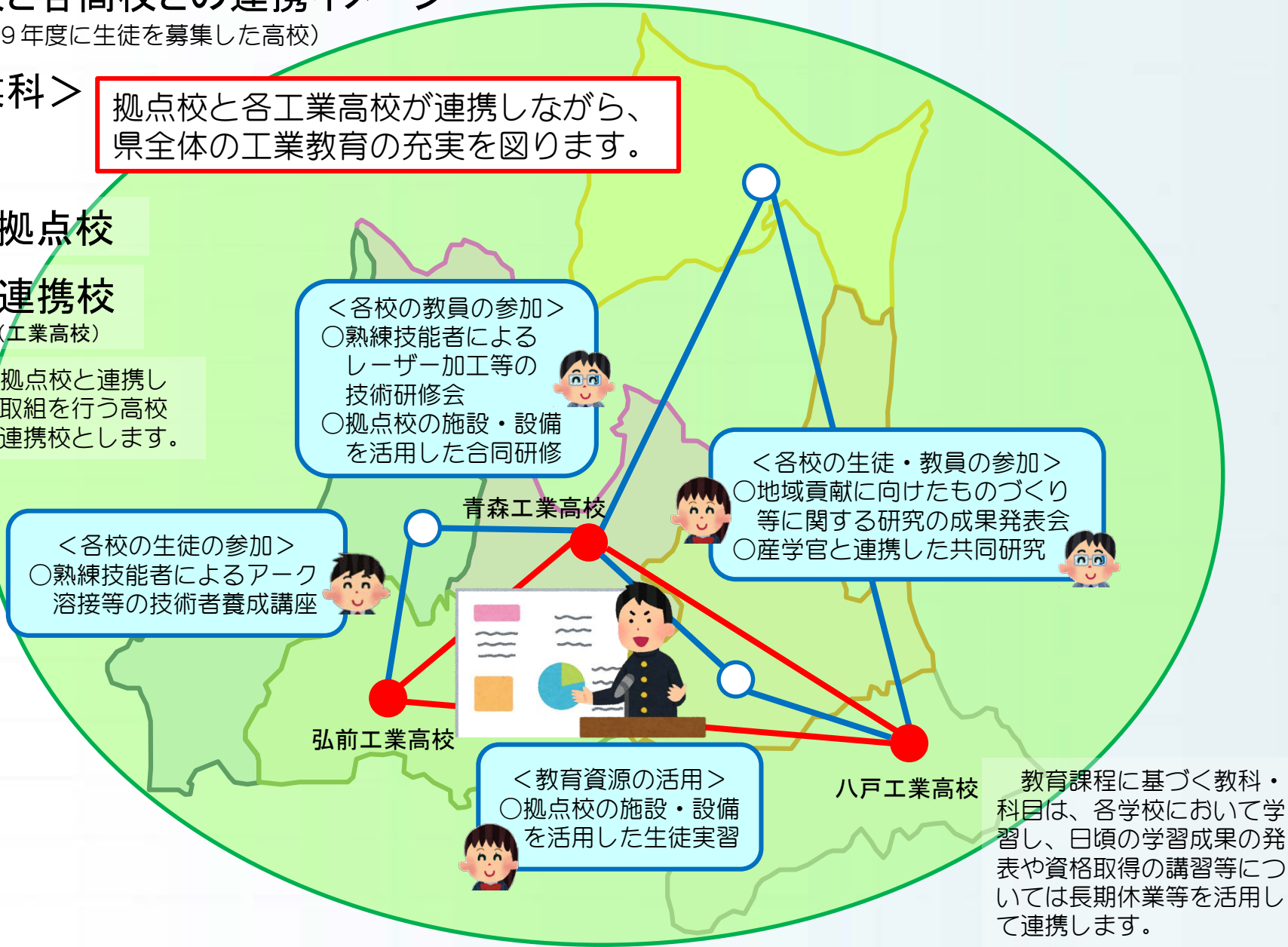
<工業科>

拠点校と各工業高校が連携しながら、
県全体の工業教育の充実を図ります。

● 拠点校

○ 連携校
(工業高校)

※ 拠点校と連携した取組を行う高校を連携校とします。



<各校の教員の参加>
○ 熟練技能者によるレーザー加工等の技術研修会
○ 拠点校の施設・設備を活用した合同研修

<各校の生徒・教員の参加>
○ 地域貢献に向けたものづくり等に関する研究の成果発表会
○ 産学官と連携した共同研究

<各校の生徒の参加>
○ 熟練技能者によるアーク溶接等の技術者養成講座

<教育資源の活用>
○ 拠点校の施設・設備を活用した生徒実習

教育課程に基づく教科・科目は、各学校において学習し、日頃の学習成果の発表や資格取得の講習等については長期休業等を活用して連携します。

2 全日制課程 — 職業教育を主とする専門学科

拠点校と各高校との連携イメージ

(平成29年度に生徒を募集した高校)

<商業科>

- 拠点校と各商業高校が連携しながら、県全体の商業教育の充実を図ります。
- 各商業高校は拠点校とともに、商業科目を学習する普通科、総合学科等を含めた商業教育を牽引します。

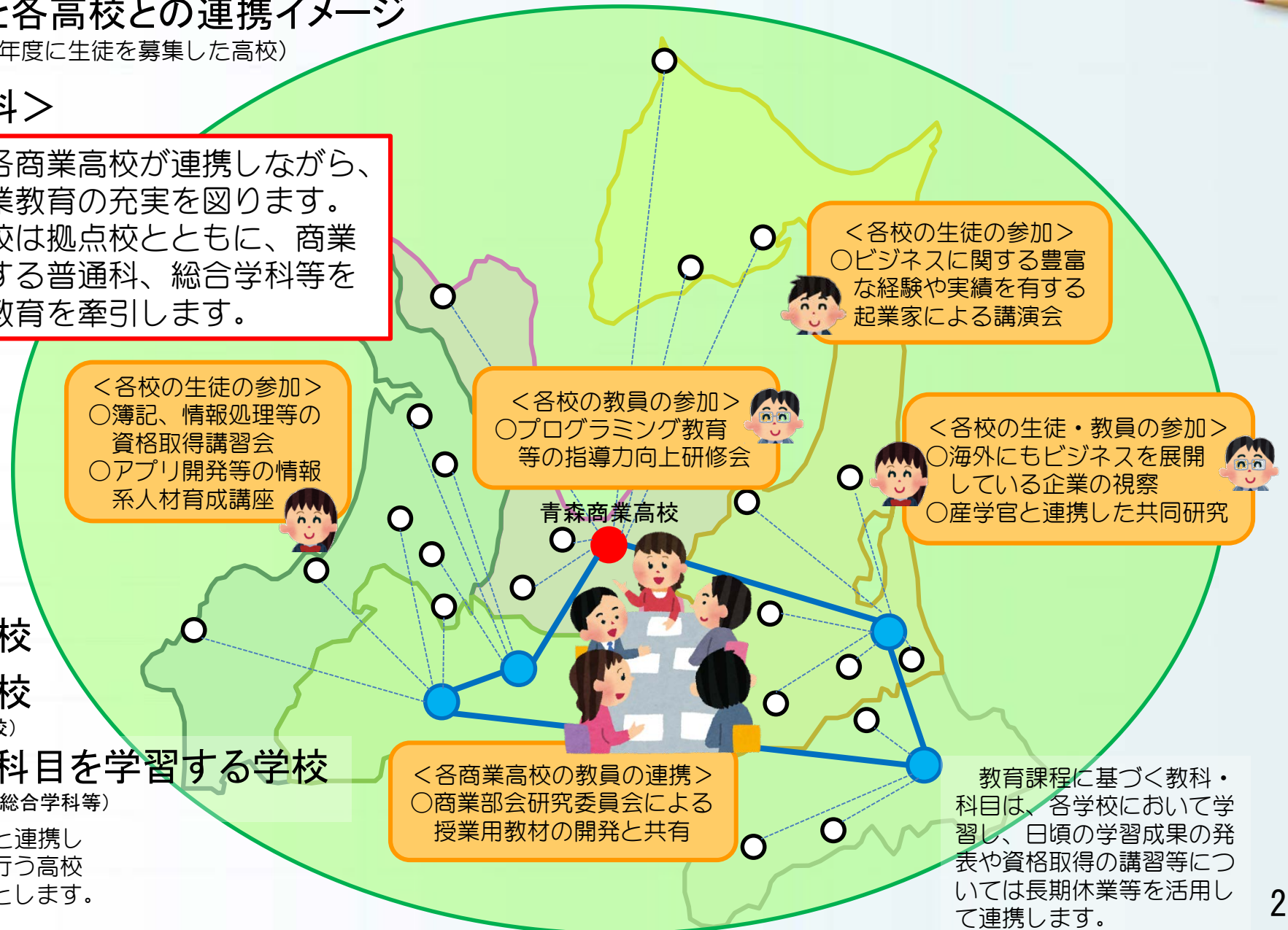
● 拠点校

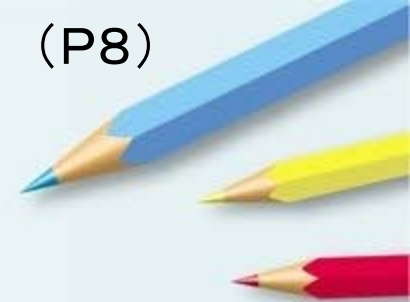
● 連携校
(商業高校)

○ 商業科目を学習する学校

(普通科、総合学科等)

※ 拠点校と連携した取組を行う高校を連携校とします。





2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

学科改編等

農業科								
対象校	農業科を設置する高校							
実施年度	平成30年度～平成34年度							
改編内容	○ 環境保全型農業の実施や農業の6次産業化等、これからの農業経営に必要な力を身に付け、 農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成							
	学校名	H29の学科	→	学科改編等	学校名	H29の学科	→	学科改編等
	五所川原農林高校	生物生産科		(変更なし)	三本木農業高校 (上北地区統合校)	植物科学科		(変更なし)
		森林科学科				動物科学科		(変更なし)
		環境土木科				農業機械科	→	環境工学科
食品科学科			環境土木科					
柏木農業高校	生物生産科		(変更なし)	名久井農業高校	農業経済科	→	食品科学科	
	環境工学科				生物生産科	→	生物生産科	
	食品科学科				園芸科学科			
弘前実業高校	農業経営科	→	募集停止 (柏木農業高校に集約)	環境システム科		(変更なし)		



2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

(三本木農業高校（上北地区統合校）における教育環境の整備)

【青森県立高等学校教育改革推進計画 基本方針】

- 農業科の拠点校においては、農産物の生産に加え、生産を支える環境、加工、流通等について学習できる環境を整備する。

【三本木農業高校（上北地区統合校）における学科改編の考え方】

- 拠点校として、農産物の生産に加え、生産を支える環境、加工、流通等について幅広く学習できる学科を設置する。
- 農業機械科と環境土木科を統合して環境工学科に改編し、農業機械や農業土木等、農業生産を支える環境に関する学習の充実を図る。
- 農業経済科を食品科学科に改編し、食品の製造・成分分析・品質管理や流通等に関する学習の充実を図る。



2 全日制課程 一 職業教育を主とする専門学科

学科改編等

工業科								
対象校	工業科を設置する高校							
実施年度	平成30年度～平成34年度							
改編内容	○ 職業の多様化に対応できる資質・能力及び高度な技術を身に付け、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成							
	学校名	H29の学科	→	学科改編等	学校名	H29の学科	→	学科改編等
	青森工業高校	機械科	→	機械科	十和田工業高校	機械・I科 ⁺ 科		(変更なし)
		電子機械科				電気科		(変更なし)
		電気科		(変更なし)		電子科	→	電子科
		電子科		(変更なし)		電子機械科		(変更なし)
		情報技術科		(変更なし)		建築科		(変更なし)
		建築科		(変更なし)		機械科		(変更なし)
		都市環境科		(変更なし)		電気科	→	電気科
	五所川原工業高校 (西北地区統合校)	機械科		(変更なし)	むつ工業高校	電子科		(変更なし)
電気科			(変更なし)	設備・I科 ⁺ 科			(変更なし)	
電子機械科		→	電子機械科	機械科		→	機械科	
弘前工業高校	情報技術科		(変更なし)	八戸工業高校	電子機械科		(変更なし)	
	機械科		(変更なし)		電気科		(変更なし)	
	電気科		(変更なし)		電子科	→	電子科	
	電子科		(変更なし)		情報技術科		(変更なし)	
	情報技術科		(変更なし)		土木建築科 (土木コース・建築コース)	→	土木科	
	土木科		(変更なし)			→	建築科	
	建築科	→	建築科		材料技術科		(変更なし)	
インテリア科		(変更なし)						

2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

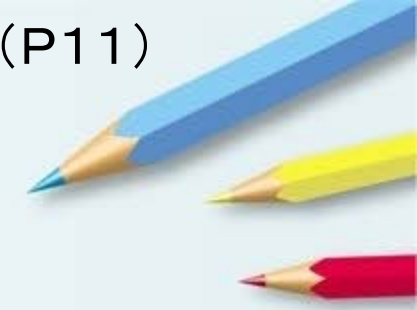
(十和田工業高校における教育環境の整備)

【青森県立高等学校将来構想について（答申）】

- 今後は、基幹となる学科（機械、電気、電子、建築、土木）を中心に、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けながら、新しい技術も学ぶことのできる学校を設置するとともに、**それ以外の工業科においても、各地区の産業構造に合わせた学習内容を引き続き提供**できるように、その在り方を検討する必要がある。

【十和田工業高校における学科改編の考え方】

- 電子機械科を電子科に統合し、**回路設計、電子機器の製作技術等に加え、コンピュータ制御技術等に関する学習の充実**を図る。



2 全日制課程 一 職業教育を主とする専門学科

学科改編等

商業科

対象校

商業科を設置する高校

実施年度

平成30年度～平成34年度

改編内容

- 経済のサービス化・グローバル化、ICTの急速な進展に対応できる資質・能力等を身に付け、ビジネスを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う人財を育成

学校名	H29の学科	→	学科改編等
青森商業高校	商業科		(変更なし)
	情報処理科		
弘前実業高校	商業科		(変更なし)
	情報処理科		
黒石商業高校	商業科	→	募集停止 (弘前実業高校に集約)
	情報処理科		
	情報デザイン科	→	募集停止 (中南地区統合校に学習内容を引き継ぎ)
三沢商業高校	商業科		(変更なし)
	情報処理科		
十和田西高校	観光科	→	募集停止 (上北地区統合校に学習内容を引き継ぎ)
八戸商業高校	商業科		(変更なし)
	国際経済科	→	募集停止 ※
	情報処理科		(変更なし)

※ 第3次実施計画【後期】に基づき、平成30年度に募集停止することとしています。

2 全日制課程 一 職業教育を主とする専門学科



(上北地区における観光に関する学習の充実)

【地区意見交換会（上北）における主な意見】

- 環境省による国立公園満喫プロジェクトにおいて、十和田八幡平国立公園が選定されたこともあり、十和田西高校の観光科という特色ある学科を存続させることは、この地域の観光産業の未来、地方創生を考える上で有益である。
- 七戸高校の総合学科で観光科の学習内容を引き継ぐことについては、これまでの教育活動が奥入瀬溪流・十和田湖をフィールドとして展開してきたこと等を考慮し、検討する必要がある。

【観光科の募集停止の考え方】

- 第1次志望倍率（H25～H29の5年平均）が0.74倍と低い状況にあること、観光科への入学者数が減少傾向にあることから、募集停止とする。
- 設置経緯やこれまでの教育活動等を踏まえ、学習内容は上北地区統合校に引き継ぎ、地域資源を活用した観光に関する学習の充実を図る。

2 全日制課程 ー 職業教育を主とする専門学科

【その他の職業教育を主とする専門学科】

- 水産科、**家庭科**、看護科については、引き続き、専攻科を含む各学科の充実を図るとともに、**中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直し**



2 全日制課程 ー 総合学科



系列の見直し

総合学科	
対象校	総合学科を設置する高校
実施年度	平成30年度～平成34年度
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校の課題研究における成果等を共有し、特色ある教育活動を充実 ○ 多様な選択科目の充実を図るため、引き続き、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用 ○ 特色ある教育活動の充実を図るため、引き続き、系列※の在り方について各校と検討し、見直し

※ 系列 … 生徒の科目選択の参考となるように関連する科目をまとめたもの（総合選択科目群）



3 定時制課程・通信制課程

定時制課程の充実

対象校	北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、 田名部高校、八戸中央高校
実施年度	平成30年度～平成34年度
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ スクールソーシャルワーカー等専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等、教育環境を充実 ○ 夜間定時制課程について、引き続き、生徒のニーズ等を踏まえ、地区全体の視点から在り方を検討

工業科の見直し

対象校	青森工業高校、弘前工業高校、八戸工業高校
実施年度	平成33年度
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学者数が大幅に減少し、教育環境の維持が困難となっている工業技術科を募集停止 ○ 工業技術科の募集停止後であっても、引き続き、他の定時制課程において、職業教育に関する専門科目の充実を図るとともに、高校教育を受ける機会を確保



3 定時制課程・通信制課程

定時制課程における学校配置

(単位：学級)

年度・学級数等 学校・学科		第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
北斗	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
青森工業	工業	1	0	△1	H33募集停止、H35年度末閉課程
五所川原	普通	1	1		
尾上総合	総合・Ⅰ部	1	1		
	総合・Ⅱ部	1	1		
	総合・Ⅲ部	1	1		
弘前工業	工業	1	0	△1	H33募集停止、H35年度末閉課程
三沢	普通	1	1		
田名部	普通	1	1		
八戸中央	普通・午前部	1	1		
	普通・午後部	1	1		
	普通・夜間部	1	1		
八戸工業	工業	1	0	△1	H33募集停止、H35年度末閉課程
計		15	12	△3	



3 定時制課程・通信制課程

通信制課程の充実

対象校	北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校
実施年度	平成30年度～平成34年度
取組内容	○ ICTを活用した教育方法の導入に向けて検討し、教育環境を充実

高校入学後の進路変更への対応

対象校	北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校
実施年度	平成30年度～平成34年度
取組内容	○ 北斗高校において、後期入学や年度中途からの転入学・編入学等、高校入学後の進路変更に対応 ○ 北斗高校における実施状況を検証した上で、生徒のニーズを踏まえ、他校においても段階的に取組

3 定時制課程・通信制課程

通信制課程における学校配置

(単位：人)

年度・募集人員等 学校・学科		第3次	第1期		備考
		H29	H34	期間内増減	
北斗	普通	200	200		
尾上総合	普通	150	150		
八戸中央	普通	150	150		
計		500	500	±0	

第3 学校規模・配置 — 全日制課程

(計画的な学校規模・配置に当たっての観点)



高校教育を受ける
機会の確保

【各地区における中学生の進路の選択肢の確保】

幅広い進路選択に
対応する高校

選抜性の高い大学への
進学に対応する高校

実践的な職業教育に
対応する高校

【通学環境への配慮】

地理的な要因から高校への通学が困難な地域が新たに生じないように配慮

充実した
教育環境の整備

《学校規模の標準》

(基本となる学校)

1 学年当たり
4 学級 (160人)
以上

(普通科等の重点校)

1 学年当たり
6 学級 (240人)
以上

(職業教育を主とする
専門学科の拠点校)

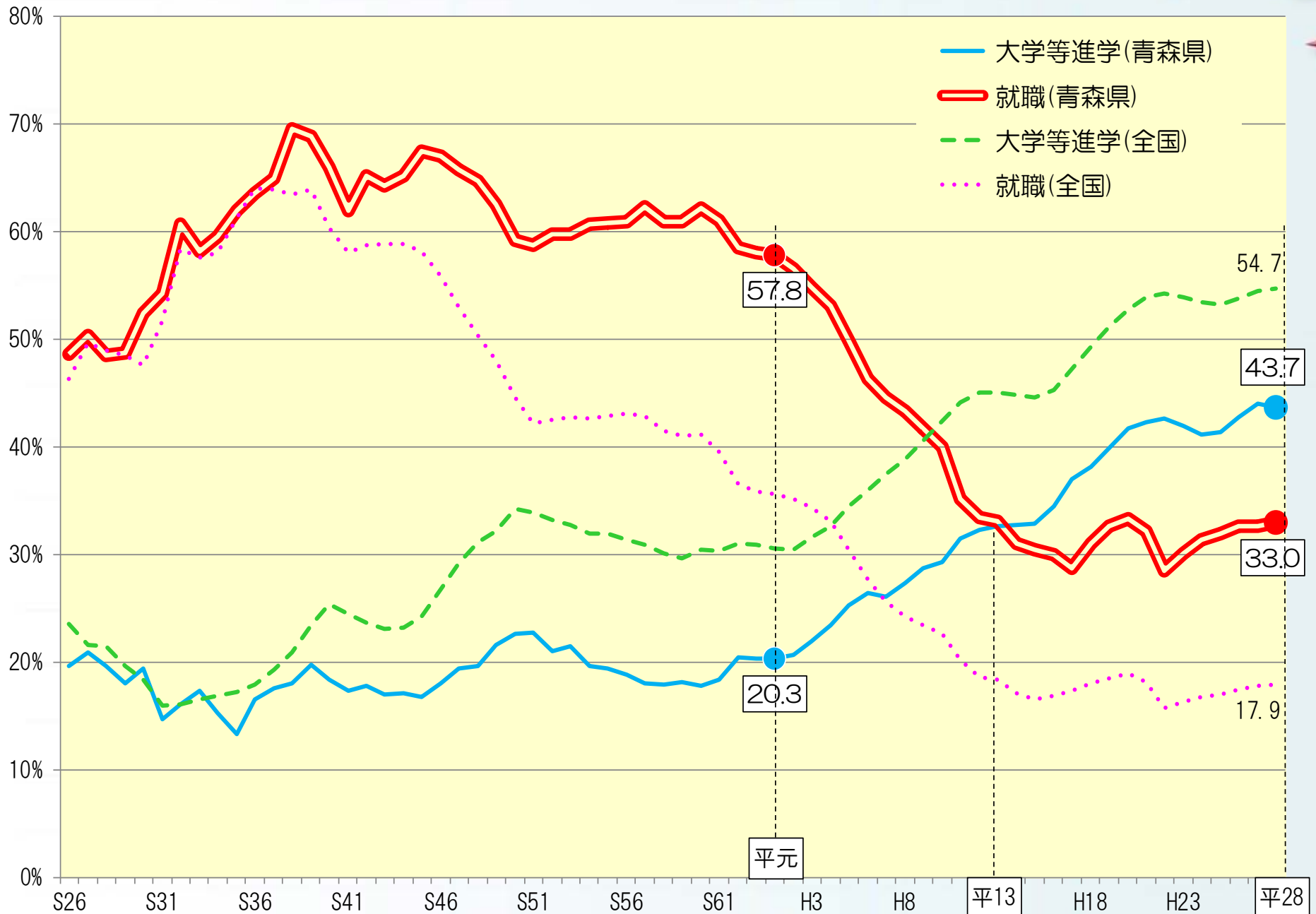
一つの専門学科で
1 学年当たり
4 学級 (160人)
以上

◆一定の学校規模を維持することにより、本県高校教育全体の質の確保・向上

※

※ 1 学年当たり4学級 (160人) … 1 学級の定員を35人とする学級編制の弾力化を実施している学校にあつては140人以上。

(高等学校卒業後の進路状況)



(学校基本調査及び高等学校等卒業者の進路状況調査より)



(学校規模による科目の開設状況等)

【学校規模による科目の開設状況の違い】

普通科	世界史 A	世界史 B	日本史 A	日本史 B	地理 A	地理 B	現代社会	倫理	政治・経済
1 学級規模	○		○	△	△		◎		◇
2～3 学級規模	◎		◇	○	◇	◇	◎		◇
4～5 学級規模	◎	○	◎	○	○	○	◎	△	○
6～7 学級規模	◎	○	○	◎	◇	◎	◎	○	◎

普通科	物理基礎	物理	化学基礎	化学	生物基礎	生物	地学基礎	地学	科学と生活
1 学級規模			○		○	△	◇		○
2～3 学級規模	○	◇	◎	○	◎	○	△		◇
4～5 学級規模	◎	○	◎	◎	◎	○	△		
6～7 学級規模	○	◎	◎	◎	◎	◎	◇		

「◎」… 全校で開設、「○」… 3/4以上の学校で開設、「◇」… 1/2以上の学校で開設、「△」… 1/3以上の学校で開設



(学校規模による科目の開設状況等)

【学校規模による部活動設置状況の違い】

	運動部																平均設置部数		
	硬式野球	陸上競技	バスケットボール	バレーボール	テニス	ソフトテニス	ハンドボール	ソフトボール	バドミントン	卓球	サッカー	ラグビー	剣道	柔道	弓道	空手道		水泳	フェンシング
1学級規模	◇	△	◇	○					△	△					△				4.8部
2～3学級規模	◎	○	◎	○	◇				◇	◇	△				◇				7.5部
4～5学級規模	◎	◎	◎	◎	◇	◇		○	◇	○	◎		○	◎	◇		△	△	13.2部
6～7学級規模	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	○	◎	○	◎	△	○	◇	○	◇	○		15.8部

	文化部																平均設置部数	
	書道	美術	写真	茶道	華道	音楽	吹奏楽	演劇	JRC	放送	文学	家庭・家政系	自然科学等	囲碁・将棋	パソコン等	商業・簿記等		
1学級規模		△		◇			◇					○				△		3.4部
2～3学級規模	△			△		△	◇		△						△	△		4.3部
4～5学級規模	◇	○	△	◇		△	○	◇	△	◇				△				9.0部
6～7学級規模	○	◎	○	○	◇	△	◇	○	◇	◇	○		◇	△				12.5部

「◎」… 全校で設置、「○」… 3/4以上の学校で設置、「◇」… 1/2以上の学校で設置、「△」… 1/3以上の学校で設置

(学校配置の考え方)

- ① 学校規模の標準を踏まえ、6地区ごとに中学校卒業予定者数の推移、中学生のニーズ等に対応した**計画的な学校配置**
- ② 生徒にとって必要な学科の選択肢を確保するため、異なる学科の高校の統合による**複数の学科を有する高校**の設置の検討
- ③ **公共交通機関の利便性等を考慮**
- ④ **重点校を各地区に配置し、農業科・工業科・商業科の拠点校を全県的なバランスを考慮して配置**
- ⑤ 学校規模の標準を満たさない高校のうち、**募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校**については、**地域における通学状況を考慮した上で地域校として配置**

(地域校への対応)

(地域校の判断に用いた公共交通機関の状況)

- 路線の整備状況（通学可能な公共交通機関が存在するか。）
- 利用時間帯（早朝(おおむね午前6時以前)に乗車しなければならないか。）
- 利用時間（片道の乗車時間がおおむね1時間を超えるか。）

地 区	東青	西北		上北	下北	三八
地域校	青森北高校 今別校舎	木造高校 深浦校舎	中里高校	六ヶ所高校	大間高校	田子高校

(基本方針に定める基準等)

- 本計画において**地域校とする2学級規模の高校**については、入学者数が1学級規模の募集人員である**40人以下の状態が2年間継続**した場合、原則として**1学級規模**とする。
- **1学級規模の地域校**については、募集人員に対する**入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満**となった場合には、募集停止等に向けて、当該高校の所在する市町村等と協議する。

(取組内容)

- 小規模校における教育活動の充実を図るため、**各校との連携による教育活動**に必要な施策を実施



(上北地区における高校の配置状況)

【平成29年度（第3次実施計画最終年度）に生徒を募集した高校】

- 普通科等の高校
- 職業教育を主とする専門学科の高校
- 総合学科の高校



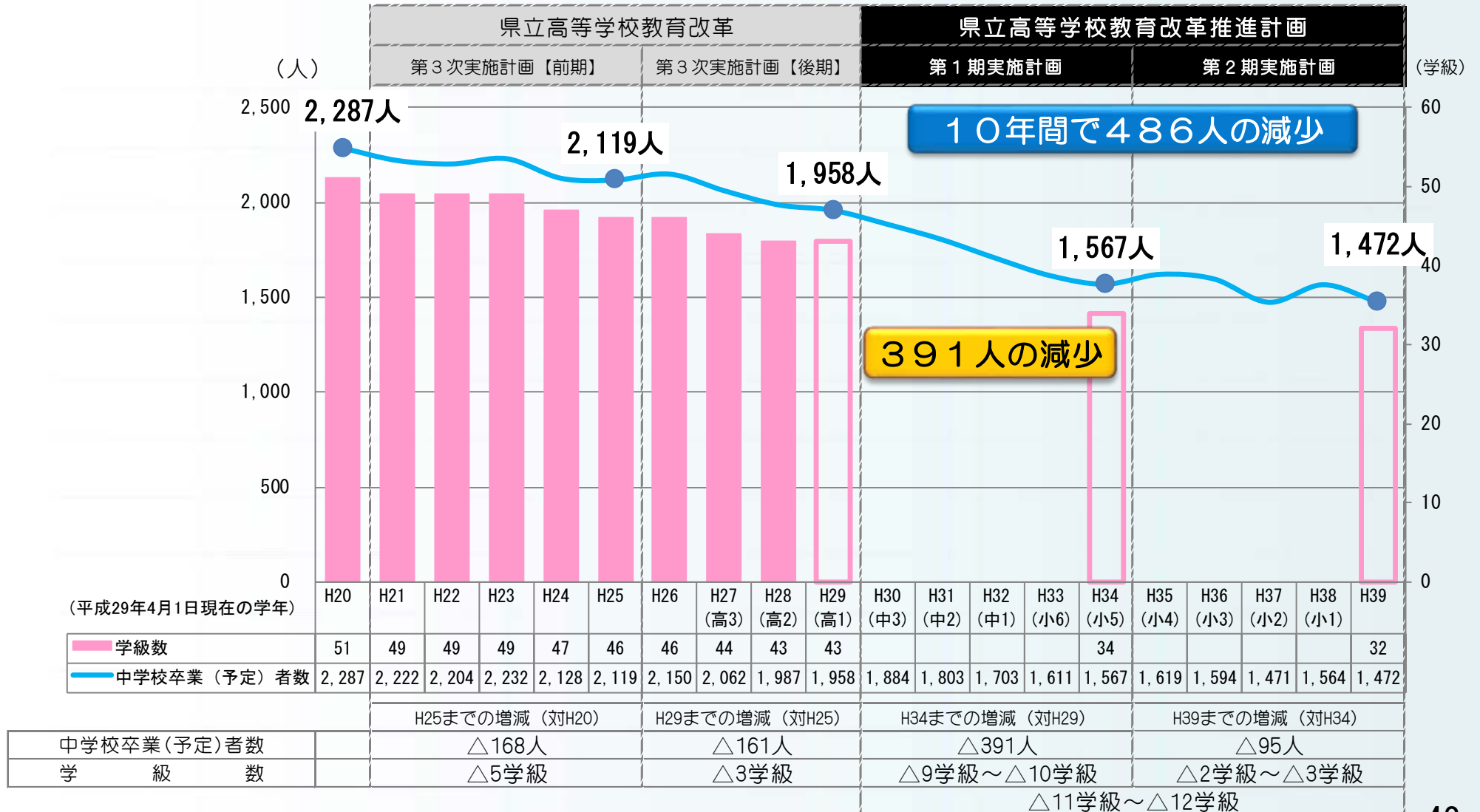
(上北地区における中学校卒業予定者数の推移)

※中学校卒業(予定)者数は、各年3月。

平成29年度以降は、平成28年5月1日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。

※平成29年度の学級数は、県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】によるもの。

平成30年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流入等々の状況を勘案し、算出。



(上北地区における地区意見交換会の 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション)

シミュレーション1

【平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合】

- 通学による負担が少なく済む。
- 1学級規模では、生徒が卒業後に大きな世界の中で生きていくための社会性や人間性を十分育成できないのではないかと危惧されることから、**現在ある高校を全て配置する考え方は現実的ではない。**

シミュレーション2

【上北地区の重点校を三本木高校、三沢高校とし、農業科、工業科、商業科の拠点校を配置する場合】

- 相互に切磋琢磨することの効果が大いと思われるため、**重点校、拠点校を複数配置することに賛成である。**
- 仮に重点校を2校、拠点校を3校配置した場合、果たしてそれぞれの高校が、重点校の1学年6学級以上、拠点校の一つの専門学科で1学年4学級以上という学校規模を満たすことができるのか。さらに、**他の高校の存続に関する影響はどうか。**

(上北地区における地区意見交換会の 委員の意見に基づく学校配置シミュレーション)

シミュレーション3

【農業科、工業科、商業科のいずれかと普通科を統合して新設校を配置する場合】

- 将来の進路が明確でない中学生は、普通科に進学するケースが多い。明確な目標を持っている生徒でなければ専門学科に進学しないため、**統合により選択肢が増えることのメリットは大きい**と考える。
- 普通科と専門学科を併置することで、**学校の特色を出すことが非常に難しくなるのではないか。**

シミュレーション4

【六戸高校と十和田西高校の普通科を統合し、十和田西高校の観光科の学習内容を七戸高校の総合学科に引き継ぐ場合】

- 七戸高校の総合学科で**観光科の学習内容を引き継ぐこと**については、**十和田西高校に観光科が設置された経緯、これまでの教育活動が奥入瀬・十和田湖をフィールドとして展開してきたこと等を考慮し、検討する必要がある。**

(上北地区における各校の学校規模)

(単位：学級)

年度・学級数等 学校・学科		第3次	第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	期間内増減	
三本木	普通	6	6		(普通)
三沢	普通	5	5		英語科を普通科に改編の上、1学級減 (普通)
	英語	1	0	△1	
野辺地	普通	3	2	△1	(普通)
七戸	総合	4	3	△1	(総合)
百石	普通	3	2	△1	(普通、食物調理)
	家庭	1	1		
六ヶ所	普通	2	※ 2	※	地域校(普通)
上北地区統合校	普通		2	+2	H33募集開始 (普通、植物科学、動物科学、環境工学、食品科学)
	農業		4	+4	
十和田西	普通	1	0	△1	H33募集停止、H34年度末閉校
	商業	1	0	△1	
六戸	普通	2	0	△2	H33募集停止、H34年度末閉校
三本木農業	農業	5	0	△5	H33募集停止、H34年度末閉校
十和田工業	工業	5	4	△1	(機械・IT、電気、電子、建築)
三沢商業	商業	4	3	△1	(商業、情報処理)
計		43	※ 34	※ △9	

※ 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

(上北地区における学校規模・配置の考え方)

中学校卒業予定者数は平成34年度までに391人減少 → 9学級減

- 三本木高校を普通科等の重点校とし、三本木農業高校（上北地区統合校）を農業科の拠点校とする。
- 六ヶ所高校については、募集停止することにより高校への通学が困難となる地域が生じることから、**地域校として配置**する。
- 地区の学校配置の状況、志願・入学状況や通学環境等を踏まえ、平成33年度に十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校を統合し、**学校規模を維持するとともに、普通科及び農業科の選択肢を確保**する。

また、統合後の学校は6学級規模とし、交通の利便性等を考慮し、**三本木農業高校の校舎を使用**する。

対象校	十和田西高校（普通科1学級、商業科1学級：観光） 六戸高校（普通科2学級） 三本木農業高校（農業科5学級：植物科学・動物科学・ 農業機械・環境土木・農業経済）
実施年度	平成33年度
学科構成	普通科2学級 農業科4学級（植物科学・動物科学・環境工学・食品科学）

(上北地区における学校規模・配置の考え方)

- 地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、三本木高校を6学級規模、三沢高校を5学級規模、十和田工業高校を4学級規模、七戸高校、百石高校、三沢商業高校をそれぞれ3学級規模として配置する。
- 3学級規模の野辺地高校については、通学環境や近隣の高校の配置状況等を踏まえ、2学級規模として配置する。



(上北地区における統合校の方向性)

【統合校における教育活動】

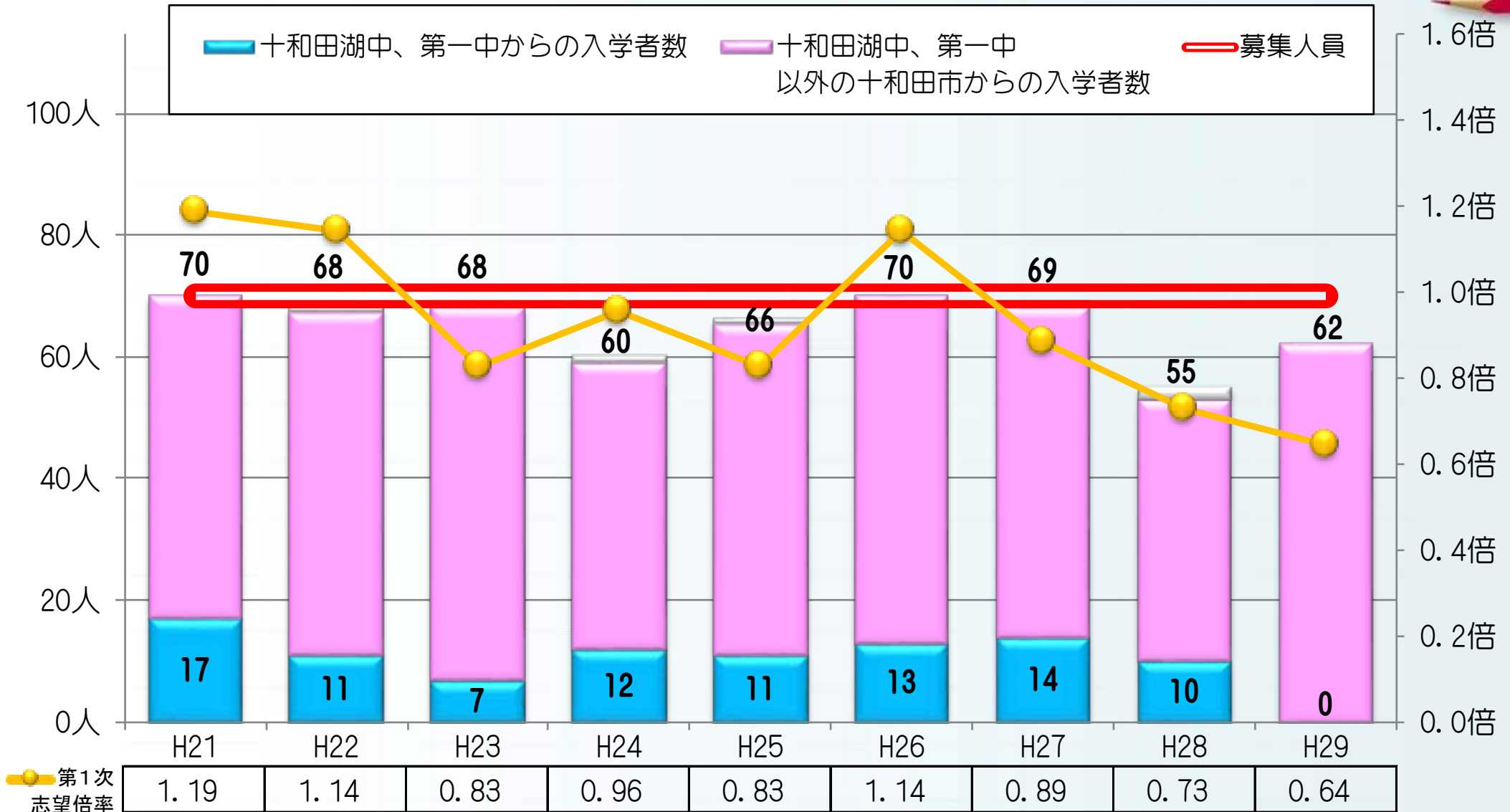
- 普通科：**地域資源を活用した観光やボランティアに関する学習への取組**
- 農業科：**これからの農業経営に必要な力を身に付けるため、**営農大学校の教員や学生との交流等を推進****
- 普通科と農業科を併設するメリットを最大限に活用し、**普通科の生徒のキャリア教育の充実や農業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応**

【目指す人財像】

- ◆ **社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財**
- ◆ **地域資源の活用に創造的に取り組み、地域の発展に貢献する人財**
- ◆ **農産物の生産とその生産を支える環境、加工、流通、販売等について学び、地域産業を支える人財**

(十和田西高校の志願・入学状況)

[志願状況は進路志望状況第1次調査※による志望倍率]

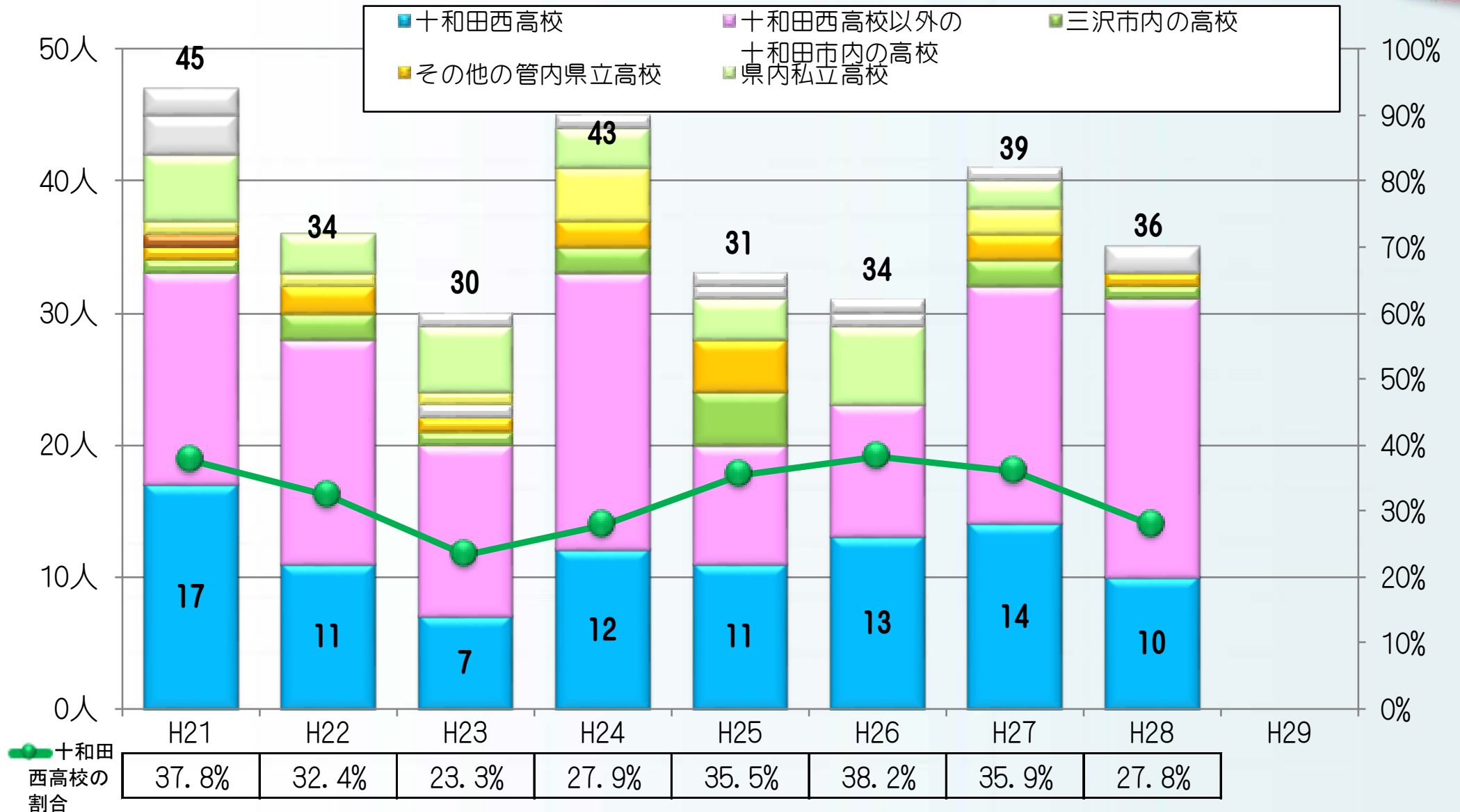


(入学者数はH28まで実績。H29は県教育庁高等学校教育改革推進室調べによる速報値。)

※ 進路志望状況第1次調査 … 中学校卒業予定者の進路志望状況を最初に調査しているもので、他の生徒の志望状況にとらわれず、生徒の志望動向がわかるもの。(中学校3年生を対象として例年11月頃に実施)

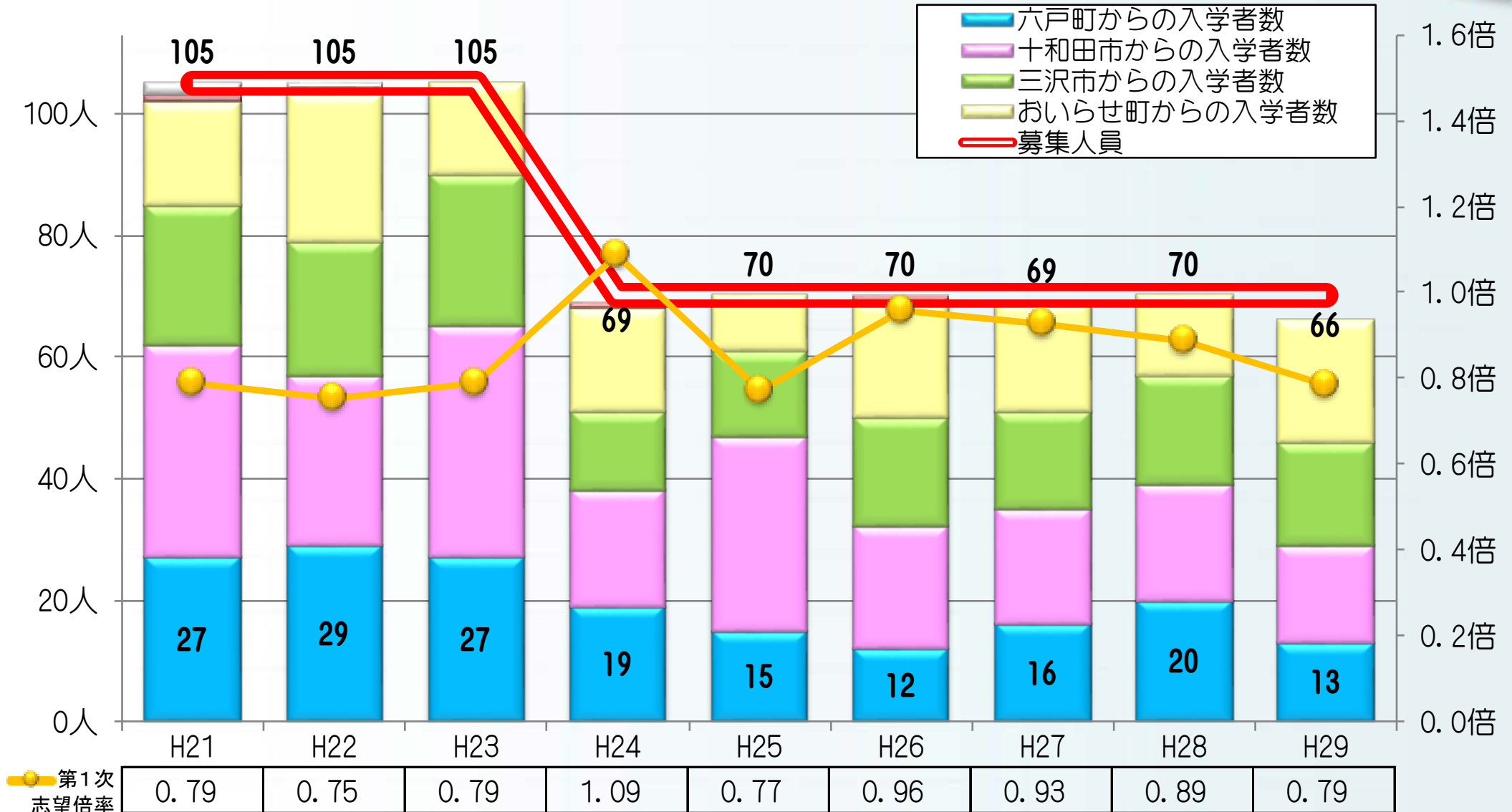


(十和田湖中学校、第一中学校卒業者の進路状況)



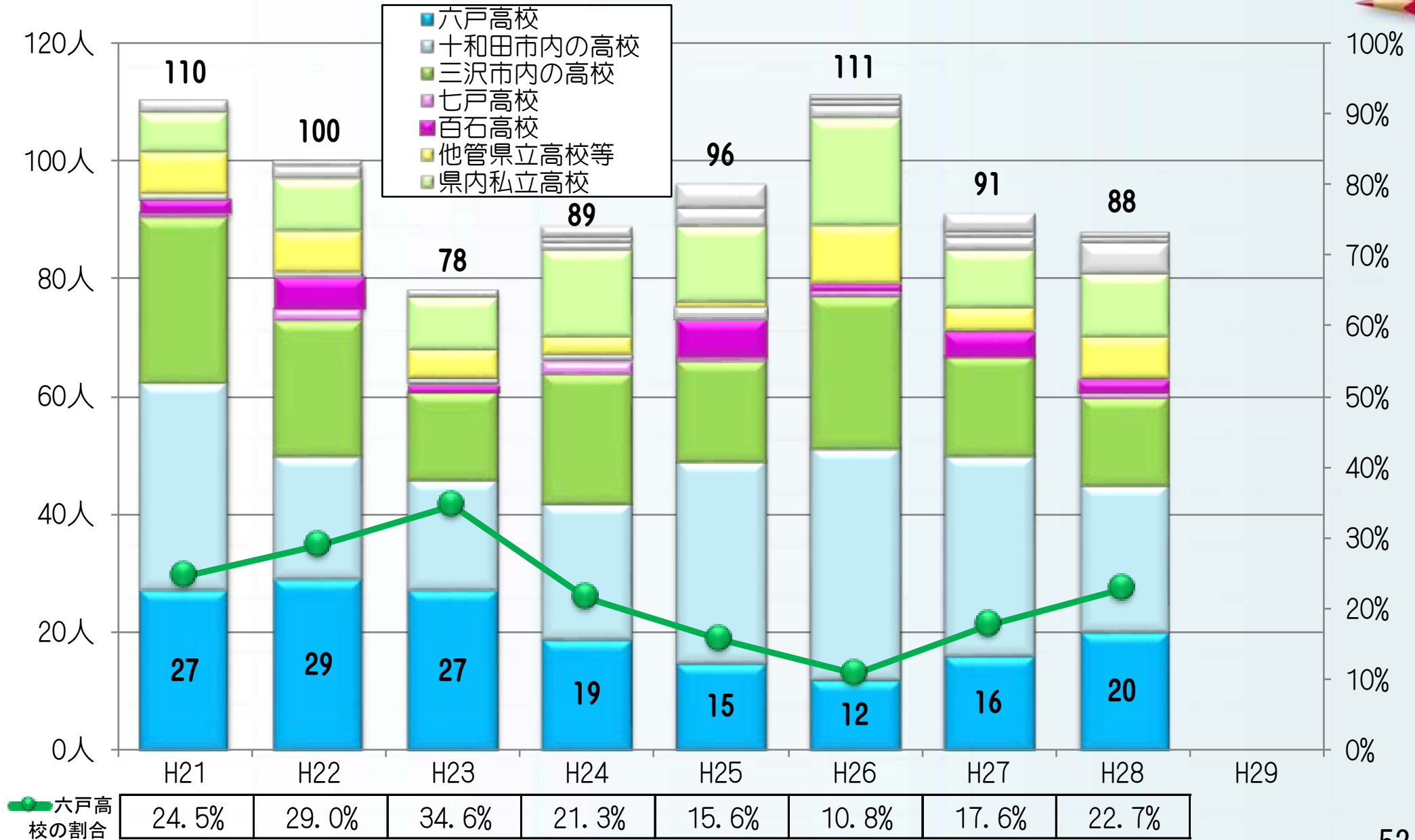
(H29の進路状況については現在精査中。)

(六戸高校の志願・入学状況)



(入学者数はH28まで実績。H29は県教育庁高等学校教育改革推進室調べによる速報値。)

(六戸町立中学校卒業者の進路状況)



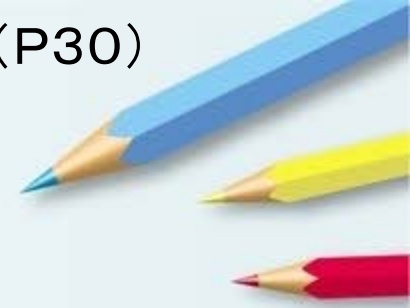
(H29の進路状況については現在精査中。)



(計画的な統合に当たっての留意事項)

- ① 統合の対象となる学校に入学した生徒は、**入学した学校で学び、卒業することを基本とする。**
- ② **統合の対象となる学校の教育活動を維持**できるよう、教育課程の実施等に要する適正な教職員配置とともに**学校行事をはじめとする特別活動や部活動等の生徒の活動の場の確保**に努める。
- ③ 統合の対象となる学校の関係者等で構成する**開設準備委員会**をあらかじめ設置し、**統合校の教育活動の充実**に向け、**統合校の新たな名称、教育活動、目指す人財像等**について検討するとともに、統合の対象となる学校間における連携や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について協議する。
- ④ 統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、**統合校が引き継ぐ。**

県立高等学校教育改革の推進



1 推進計画の進捗管理

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第1期実施計画の取組状況について検証し、**必要に応じて実施計画を見直し**
- これまで翌年度分を公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、**翌々年度分の見込みを含め公表**

2 第2期実施計画の策定

- 第2期実施計画の策定に当たっては、地区意見交換会を開催するなど、地域の意見を聴取しながら検討し、**平成33年度の決定を目指す。**



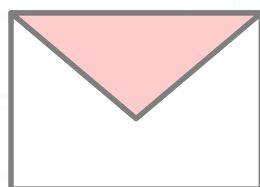
3 今後のスケジュール

【第1期実施計画決定までのスケジュール】

年度	公表等	県民から意見を伺う機会
H26	県立高等学校将来構想検討会議 設置	
H27	中間まとめ(7月)	
	↓	← 意見募集、地区懇談会、市町村訪問
	答申(1月)	
	↓	← 意見募集、地区懇談会、市町村訪問
H28	基本方針(案)(5月)	
	↓	← パブリック・コメント、地区懇談会
	基本方針 決定(8月)	
	重点校、拠点校、地域校の試案	市町村訪問
	↓	← 地区意見交換会(9月～1月)
H29	第1期実施計画(案)(4月)	
	↓	← パブリック・コメント、地区懇談会
	第1期実施計画 決定(7月予定)	
H30	第1期実施計画 開始	

第1期実施計画（案）に関するパブリック・コメントを実施中です

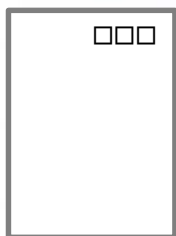
<6月5日（月）まで>



これから高校に入学するお子さんたちに直接かかわる
ことです。

ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！

E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp



〒030-8540 青森市新町2-3-1

青森県教育庁高等学校教育改革推進室

FAX 017-734-8003

青森県 高校改革

検索



[http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/
kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html)



今日は、地区懇談会に御出席いただき、

ありがとうございました。

